

インドに伝わる知恵とところ：北インドの昔話・なぞなぞ・子守歌から

坂田貞二（拓殖大学教授「ヒンディー語」「昔話の世界」担当）

[] 昔話・なぞなぞ・子守歌で伝わる知恵とところ：先人からつぎの代に Tradition to be enjoyed.

[] 北インドの昔話が伝えようとするところ：誰から誰へ、どういう場で伝わるのか Folktales.

0. インドの村や町で昔話が語られる場での体験から、4 事例 (A. ~ D.) を紹介。 4 examples.
つぎの A. ~ D. で引用・紹介する科白や歌から、語りの流れを考えましょう。

A. 「しっぽをつかまれた山犬」(10 歳の男子の語り) The jackal caught by its tail.

山犬「おれのしっぽをつかむがいいさ、おれはごちそうたっぷり食うぜ」

お百姓「おれのごちそう食うのなら、おまえのしっぽをちょんぎるぞ」

= 坂田『インドの昔話』上 春秋社、1983。 この話が伝えるところ：

B. 「天にのぼるベールの木」(51 歳の女性の語り) The ber tree goes up to heaven.

ベールの木になった妹「兄さん、どうしよう、父さんの使いが花をつみにきたわ」

マンゴーの木になった兄「妹よ、心配いらないよ、天に昇ればだいじょうぶ」

物識りに教わって木を切った鳥追いの女「ああ、わたしの子どもたち」

= 坂田『インドの昔話：天にのぼるベールの木ほか』(世界のむかし話 2) 偕成社、1989。
表紙原画展示中。

部分的な類似：日本の「山椒太夫」 この話が伝えるところ：

C. 「みごとな裁き」(51 歳の男性の語り) Split the child and give him to both the “mothers.”

女 1「この子はあたしの子です」

女 2「いいえ、あたしの子です」

王さま「どちらの子かわからないから、子どもを割いて連れてゆくがよい」

女 2「おやめください。その子を割かないで、その人に渡してください」

= 坂田編訳『インド・ネパール・スリランカの民話』(8 人の専門家による翻訳)

みくに出版、1998。 類似：大岡裁きの「児裁判」 この話が伝えるところ：